



センターTOPICS

令和5年6月16日

小笠原中学校外来植物駆除体験

総合学習の一環として、父島電信山歩道近くの国有林において、小笠原中学校1年生24名が参加して、モクマオウ等の外来種の駆除体験を実施しました。モクマオウは明治12年頃、荒廃地へ植林するため移入されたとされています。当日は、保全センター職員から、外来種駆除の必要性等を説明したのち、ノコギリでモクマオウ等伐採作業を実施しました。ノコギリの使い方に慣れていない生徒も多く、センター職員が力の入れ方や伐採のコツを指導しました。外来種の駆除をとおして、島の子供達に島の自然を守ることの大切さを感じてもらえたのではないのでしょうか。



センター職員からの事前の説明



モクマオウの伐採、上手くノコギリ使えていますね